

日韓トンネル構想などについて語る釜山の
安相英市長
11月23日、市長室



「日韓トンネル実現へ 専門チームで調査中」

□ 韓国・釜山市長インタビュー □

【釜山23日田代俊一郎】韓国・釜山市の安相英市長は二十三日、市庁舎で西日本新聞社のインタビュウを受け、九州と釜山を結ぶ日韓トンネル構想について「市役所内にこの問題のタスクフォース（専門調査チーム）があり、同トンネルについて金大中大統領とも相当な話をした」と述べ、土木、建設、環境などの部際を超えたプロジェクトチームで実現に向け技術、経費問題などの検討、研究していることを初めて明らかにした。また今後、友好都市である福岡市をはじめ九州側と同構想について情報交換を示したいとの意向を示した。【2面に二問一答】

安市長は昨年九月、日韓トンネル構想に関連して、北部九州の海岸部を実際に視察。ことし六月には青瓦台（大統領官邸）で金大統領に日韓トンネル建設を要請した。

金大統領は九月の日韓首脳会談で森喜朗首相に同トンネルの建設を提案するなど、二十一世紀の日韓の共同プロジェクトとして韓国側でも関心が高まっている。

また、福岡市とは観光事業で共同キャンペーンを行っているが「福岡と釜山は二つの国の二つの都市ではなく、共同の目標を目指す一つの都市圏だ」とし、太平洋と北東アジアをつなぐ共同都市として観光、経済、地方分権などあらゆる面で協力、交流していくことを強調した。

【釜山23日田代俊一郎】

二十三日、西日本新聞社のインタビューを受け、日韓トンネル構想や福岡市との交流推進について語った韓国・釜山市の安相英(アン・サンヨン)市長との一問一答は次の通り。

【二面参照】

「福岡市との友好都市関係を強化するため、今後、どのような取り組みを考えているか。」

「福岡市は国際都市として自信に満ちている。今年五月、釜山で開いたアジア太平洋都

「日韓トンネル構想」表明

安相英・釜山市長 一問一答

安相英・釜山市長
1938年11月生まれ。ソウル大工科学部土木科卒。ソウル市道路局長、都市計画局長などを経て、88年、釜山直轄市長(官選)に。98年7月から民選市長。

福岡市と一つの都市圏に

市サミット会議をきっかけに、両都市はこの地域の観光分野における都市間協力を進める国際機構づくりに取り組んでいる。また、両市には四十を超す民間交流団体が活動

している。二つの国の二つの都市ではなく、共同の目標を持った一つの都市圏として協力していきたい」

「日韓海底トンネル構想をどう考えるか。」
「環境への影響、経済効果などを今後、さらに検討する」
「二〇〇二年のアジア大会、サッカーワールドカップなど大きなイベントを控えるなかで、釜山市の将来ビジョ

ユーラシア大陸と九州をつなぐ線路の玄関口となり、両地域の相互利益に結びつく」
「韓国は中央集権的な色彩が強く地方分権があまり進んでいないが…」

「市役所内にこの問題についてのタスクフォース(専門調査チーム)があり、金大中大統領とも相当な話をした。私も昨年九月、北部九州の候補地を実際に見に行った。建設費用、負担、技術的な問題、

「市役所内にこの問題についてのタスクフォース(専門調査チーム)があり、金大中大統領とも相当な話をした。私も昨年九月、北部九州の候補地を実際に見に行った。建設費用、負担、技術的な問題、

「現在、近隣八カ所の市、道、そして市民団体と共同で分権化運動を推進している。日本の地方分権政策の経験は今後、生かしたい。地方の指導者が独立して地方の考えを持つべきだ。世界的にも国と国の関係ではなく都市間の交流で発展できる時代になった」